

「スワーデヤーヤ」の学びのセッションのシンボル

スワミ・アカンダーナンダによる解説

シッダ・ヨーガの道のウェブサイトにある「スワーデヤーヤ」の学びのセッションのページを優美に飾っているのは、美しく独特なシンボルで、それは私たちの学びにとって大きな意味を持っています。あなたがスワーデヤーヤ、大いなる自己の探究のあらゆる側面に関する学びに大きな興味を示してくれたので、私はこのシンボルに関してさらに詳しく伝えたいと思います——そうすることで、あなたが学びの一部として研究していくための、もう一つの貴重なものを提供します。

「スワーデヤーヤ」の学びのセッションのシンボルのデザインは、グルマーイ・チッドヴィラーサーナンダが最初にこれらの学びのセッションを開催するよう要請した時に、彼女が与えた教え、指示、そして説明に従って創作されました。

シンボルの背景は、緑、オレンジ、そして赤色の流れるような陰影です。これらの色は、マンゴーが熟す際、熟す前の真緑から熟したオレンジがかった赤色へと時と共に変化していく色合いを連想させるものです。

インドの哲学と教典の伝統において、赤色は知識と関連し、オレンジ色（特に、サフランのような赤みを帯びたオレンジ色）は純粹さを表しており、それは火の色であり、不純さを焼き尽くすことからです。一方、緑色は自然界を喚起させ、平和、幸福、そして調和といった性質と関連しています。西洋の思想学派によると、緑色には同じような関連があり、さらに英知をも表します。オレンジ色は精神活動や創造性を刺激する色の一つとして考えられており、赤色はエネルギー、強さ、力、そして決断力の色です。

「スワーデャーヤ」のシンボルの主となる要素は木です。樹木は生命を示すものです。樹木は、それらがこの地球上の生命に提供している欠くべからざる恩恵——酸素、食べ物、滋養、道具、美、避難場所、そして保護——により貴ばれます。樹皮や根、そして枝葉や果実は、数々の薬効や癒やしの特性を持っています。樹木は、ただ共にいるだけで、滋養と平安をもたらしてくれます。

インドそして多くの文化では、古代から樹木は聖なる存在としてあがめられてきました。『リグ・ヴェーダ』は彼らを森(ヴァナスパティ)の王であり、自己再生し永遠で、神々の住まう家であると描写しています。¹

樹木は知識の宝庫としても知られています。物語や伝説の中で、樹木は不屈の精神、揺るがないこと、利己心のない寛容さといった美德を象徴しています。樹木はしばしば、それ自身が賢者とみなされ、その木蔭と庇護の下に座る人々に英知を授け、願いをかなえます。

樹木は、何が降り掛かろうと、復活し再生する生来の能力を持っています。最も壊滅的な山火事の後でさえ、自分自身や周囲に新しい命を吹き込みながら、木々は再び育っていきます。木々が私たちに教えているのは、たとえ状況がどのようなものであろうと、内側にある生命力は常に上に向かって立ち上がる用意ができているということです——成長し、繁栄し、生きとし生けるものすべてを育むことを助けるために。

ボダイジュの意義

「スワーデャーヤ」の学びのセッションのシンボルとして描かれている木はボダイジュ、イチジク属の神聖な木です。その紫色は深い瞑想と精神的知識の成就に関連付けられています。

遠い昔からインドでは、数え切れないほどの賢者や聖人がボダイジュの下で瞑想し、自己実現を達成してきました。ですからそれは、ボーディの木——英知の木あるいは知識を授ける木——としても知られています。

多くのインドの教典では、ボダイジュはアシュヴァッタ樹と呼ばれています。賢者たちはその根をブラフマ神、その葉をシヴァ神、その幹をヴィシュヌ神と結びつけます。『シュリー・バガヴァッド・ギーター』の中で、「木々の中でも、私はアシュヴァッタである」と、クリシュナ神は言っています。

『シュリー・バガヴァッド・ギーター』の後半で、クリシュナ神はサムサーラの本質を説明するために、根が上にあり、枝が下へ広がる逆さまのボダイジュのイメージを提示します。根は、至高の自己、至高の意識の住み家から栄養を引き出します。枝に付く葉と実は、地上の生命——すべての個々の魂——の形です。これらの魂が俗世に巻き込まれるにつれ、魂たちはその源からどんどん離れて育ちます。この理由により、神は私たちに執着しない心の修行を常にするよう語るのです。私たちはサーダナーを着実に前進させ続けながら、知識の源にしっかりと根付くことができます。

「スワーデャーヤ」のシンボルの木には、広大な、ボウルのような土台があり、私たちが人生で保持しなければならない確固たる精神的姿勢を示しています。その力強い幹は上昇する動きと成長を表しています。その木は光に向かって成長しながら、地上の生命を育む土台にしっかりと根を張っています。

ハート形の葉とアーチ形の大枝は、シンボルの木が永遠に喜んでいるように見えます。葉は特に象徴的です。ボダイジュは一度にすべての葉を落とすことはありません——古い葉が木から落ち始めると、新しい葉が取って代わり、木は常緑のままです。そのためボダイジュは不滅だと考えられています。

インドの作家や芸術家は、古代から、ボダイジュの葉に機能やひらめきを見いだしてきました。紙が発明される以前はボダイジュの葉を乾燥させ、文書を書いたり絵を描くために使われました。今でもなお、ボダイジュの葉に描かれた絵は極めて価値のある芸術形式の一つです。芸術家は葉を小さなキャンバスにして、神々や人々、動物や自然風景を細部まで丁寧にその上に描きます。作品を創るための計り知れない忍耐や技術と、絵が描かれた葉の見事な美しさにより、これらの芸術作品はとても貴重です。

「スワーデャーヤ」の学びのセッションのシンボルは、サーダナーの本質を呼び起こします。それは、精神の道で前進するために必要な内なる資質、決意、集中を私たちに思い出させます。それを見ると、私たちは基底のチャクラ、ムーラーダーラから頭頂にあるサハスラーラまでクンダリーニー・シャクティが上に向かう動きを想像することができます。それは目覚めから悟りまでのサーダナーの神聖な旅であり、スワーデャーヤ、つまり大いなる自己の学びの目的地です。



© 2020 SYDA Foundation®. 著作権所有。

¹ Rig Veda, X.97